［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4170500328
法人名	有限会社 ジョウジマ
事業所名	グループホームふるさと伊万里
所在地	佐賀県伊万里市南波多町大川原4224－1 （電 話）0955－20－3600

評価機関名	佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224番地2		
訪問調査日	平成 19年9月25日	評価確定日	成 19年10月26日

【情報提供票より】（平成 19 年 4 月 1 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 18 年 1 月 1 日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	15 人	常勤 13 人，非常勤 2 人，常勤換算 13．6

（2）建物概要

建物構造	木造造り
	1 階建ての 1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	35,000 円		その他の経費（月額）	20,000 円
敷 金	有（ 円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり	900 円		

（4）利用者の概要（ 9月25日現在）

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢 平均	82.3 歳	最低	58 歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 小島病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道202号線沿いから少し道を入り、近隣に保育園・小学校・中学校があり、周りを豊かな田園風景に囲まれた場所にある。また、近くには神社や野菜の直売所、地区の公民館などがあり、地域の方々と触れ合える環境であった。施設に入る前の玄関アプローチには、季節の花々が植えられており訪れる人が入りやすく感じる工夫をされている。リビング・廊下などには自然の明かりが差し込み、落ち着く空間作りがされている。職員の方も、あわてた様子など感じられず、入居者の方の笑顔が絶えないで、ゆっくりとした時間が流れている施設であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回の外部評価において要改善点は無かったが、更にサービスの質の向上に向けて取り組まれていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 会議の場で事前に学習会を行ない、色々な意見を出し合って自己評価に取り組まれていた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 年4回運営推進会議を開催されており、市職員の方、地域の方々から意見等をいただかれている。また、コミュニティ会議などにも出席され、地域の福祉委員とも連携をとり、ホームへの理解について働きかけをされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 家族の意見、苦情、不安についての対応としては、家族を含めて意見交換を行い、情報の行き違いのないよう確認を行い、その都度対処され運営やケアに反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地域の中で孤立しないよう、市内行事に積極的に参加し、また小中学生の福祉体験、職業体験などの受け入れもされている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ひとり一人が地域の中で、土と水と空気と人とふれあい、その人らしく生きていただこう」を理念に掲げ、取り組まれていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記にあげた理念を毎朝、唱和され日常生活の中でその理念の実現に取り組まれていた。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りやグランドゴルフ大会などといった地域行事にも参加されており、地元の方々との交流も図られていた。また、ホーム行事であるバーベキュー大会の際には、入居者・家族だけでなく、地域住民の方の参加や地元精肉店からの協力なども得ており、地域交流には努力されていた。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価の上でも、一般職員が中心となって活動し、改善すべきところなど検討されていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回運営推進会議が実施されており、利用者の状況や取り組み状況などを報告し、市職員の方及び地域の方々からの意見を取り入れられていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の福祉委員や関係者からなるコミュニティー会議や、キャラバンメイト養成員としての活動をはじめ、地域の小中学生の福祉体験、職場体験などを積極的に受け入れられていた。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の家族に対し、病状や転倒事故報告などはその都度連絡をされていた。また、金銭の預かりに関しては、2ヶ月に一回領収証とともに報告されていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、不満、苦情に対しては、家族同席での話し合いの場を持たれ、その都度対応されていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動に関しては、全体を把握したうえで実施されていた。環境の変化に敏感な入居者に対しては特に不安にならないように配慮されていた。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では月1回スタッフ会議、スタッフ研修が行われていた。また、外部研修などにも職員の希望に応じて参加できるよう配慮されていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域医療機関での研修へ積極的に参加や、市内の福祉祭りへの参加を通じて、他の福祉施設職員との交流を図るようにされていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して生活ができるように、一度見学に家族・ケアマネ同伴にて来てもらい、1週間ほどの体験入居をしてもらうなどされていた。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において役割をもって生活できるよう、掃除・洗濯・衣類整理・買い物・料理などの行為を分担することで、共に支えあう関係を築かれていた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家庭からの居室への家具等の持ち込みや日々の家事の参加など、入居者の希望に添った生活ができるように支援されていた。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	援助計画作成担当者とケアスタッフが情報交換を行い、日常生活における課題やケアのあり方について検討されていた。また、面会時やケアプラン送付などを行い、家族の意向を取り入れられていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居当初や状態が変わられたときなど頻回に援助計画の変更などされており、落ち着かれたら半年一回のペースでの見直しがなされていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	透析などで病院への定期的な受診が必要な入居者に対しても通院介助などされており、本人や家族の要望に対して柔軟に対応されていた。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に一度、嘱託医への受診をしてもらい、その後も定期的に、または、緊急時の際にも対応されていた。以前からの、かかりつけ医がある場合については、利用者・家族の意向に沿って対応されていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	独自に、ターミナル指針が作成されており、重度化されている入居者については、日頃から家族及び医療機関を含めてのカンファレンスを実施されていた。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者、家族の意向に添い、個人のプライバシーや尊厳を損なわないような支援が行われていた。具体的には入居者の意向により表札を出さない、または、行事に無理に参加しないなど個別に対応されていた。また、個人情報関連資料の保管についても注意をはらわれていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	睡眠時間、入浴時間や回数、食事のメニューなどは、利用者の希望を聞いて、その希望に添った支援がなされていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けについては、基本的には入居者の主体性を尊重され、必要に応じて役割分担をされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に関しては、毎日入浴できる。時間帯も午後4時から午後8時までの中で、入居者の好きな時間に入れるように支援されていた。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみごととして月1回は、遠方への外出等を企画されていた。又、日々の生活の中でも弁当を作ったり、近所を散歩するなどされていた。さらには、日頃から踊りや歌を練習し、市内行事にて発表する機会を設けられていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは開放的で、広い庭にはいつでも自由に出たり、周囲の散歩をしたりされていた。また、食材の買出しなどの時に、直売所へドライブをかねてでかけたり、それ以外でも、入居者からの希望があれば、その都度対応されていた。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠をすることの弊害については十分に理解されており、本人の行動を制限することがないように、施錠はされてなかった。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルが策定されており、実際に避難訓練などされていた。区長会などに参加し、日頃から地域の消防団等と連携を図るようにされていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、週3回栄養士の指導を受け入居者に合ったメニューを検討をされていた。水分摂取については、入居者のほうからの訴えが少ないため、職員のほうから食事時以外にも、10時、15時、入浴後に摂取するようすすめられていた。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、特に廊下については天窓が設けられており、自然の明かりがさしこみ心地よく感じられた。また、各リビングには季節に応じた飾りつけがされており、くつろげる空間作りがなされていた。玄関アプローチ部分については、生け花が飾られ、近隣者の方も入りやすい雰囲気づくりがされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、家族の意向に添い、洋室か和室を選んでいただくようにされていた。すでに入居された居室には、入居者の馴染みの家具などが持ち込まれており、居心地よく過ごせるようにされていた。		